

美波の海の恵み

守れ！ 活かせ！

# 海の男のトークショー

アラメ  
カジメ  
ワカメ  
タカモ

磯焼け

藻場保全

ヒジキ養殖 アイゴ

海水温の上昇

藻食動物

サンノジ

アワビ 乱獲

ゴンタ

サザエ

ブダイ

トコブシ

アワビ生息の限界温度は。

藻場の保全はアワビ漁の延命策か。

アワビやサザエは、この先、いつまで獲れるんやろうか。

もうかる海で地域を元気に！

ゲスト 新井 章吾 (株)海藻研究所 所長  
" 中西 達也 徳島県水産研究所 研究員  
司 会 浜野 龍夫 徳島大学総合科学部 教授

平成23年

7/13(水)

開場17:30 開演18:00

由岐公民館2階 大会議室

入場無料

(photo by 新井 章吾 氏)

主催/海部上灘漁業振興会



お問い合わせ先

美波町由岐支所地域振興室

TEL (0884)78-2214 FAX (0884)78-1050

# 美波の海の恵み 守れ！活かせ！ 海の男のトークショー

## 趣旨

今、美波町のみならず、徳島県全体で漁業の活気が失われつつあります。その原因は？ 具体的な対応策は？ 漁業者・住民・町のすべきことは？ 放っておくとどうなるの？

美波町の基幹産業となっている漁業の活気は、町の元気に直結します。

漁業を取り巻く現状の厳しいことは明白で、漁師さんの誰もが不安を抱えながら漁に出ている毎日ですが、漁業に活気を取り戻す主人公もまた「さかなを捕る漁師さん」です。そこで、「美波の海の恵み 守れ！活かせ！」を合言葉に「海の男のトークショー」を開催いたします。

ゲストには、全国の海を潜っている新井章吾さん、徳島県水産研究所で藻場の研究をしている中西達也さんをお迎えいたします。司会は美波町出身で、“徳島大学の漁師”こと、浜野龍夫教授です。

アワビのことをはじめ海藻のこと、海の環境のことなど、漁業者とゲストの意見をぶつけ合いながら、みんなで明日の漁業を考えましょう！

## ゲスト&司会者紹介



### 新井 章吾 (あらい しょうご)

海藻研究所と海中景観研究所の所長、4つのNPOの理事・顧問

1955年（昭和30年）海なし県の栃木県足利市生まれ、福岡在住。幼少の頃より魚採りを趣味とし、海での仕事にあこがれて東京水産大学に入学。学生時代から日本をはじめ世界各地を潜水し、藻場、マリモ、アワビ、ジュゴン（の喰み跡）、ニホンアワサンゴ、エチゼンクラゲなどを調査し、それらを活用した地域活性化に取り組む。

30年前からほぼ毎年、徳島県の海にも潜水。



### 中西 達也 (なかにし たつや)

徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究所 環境増養殖担当 主任

1970年（昭和45年）徳島県阿南市出身。高知大学農学部卒業。

平成6年4月、徳島県職員に採用され、水産課、大阪事務所、水産研究所（美波庁舎）、とくしまブランド戦略課を歴任し、平成20年4月から現在の職に就く。藻場、海藻（ヒジキ、ワカメ、モズクなど）の増養殖、ワカメ副産物の利活用、水産無脊椎動物の増殖などを担当。海部の海は大好き。



### 浜野 龍夫 (はまの たつお)

徳島大学総合科学部 教授 農学博士

1959年（昭和34年）徳島県生まれ。九州大学大学院を修了した後に、20年余、水産大学校（水産庁の大学）で水産生物の増殖や生態について教育研究を行う。2009年4月にUターンして徳島大学に移り、地域に生息する生きもので、地域おこしをするために走り回っている。

徳島県農林水産審議会や徳島海区漁業調整委員会などの委員を兼務。東由岐に自宅がある。漁業好き。

## 会場のご案内

